

國學院大學学術情報リポジトリ

スタッフ紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1841

スタッフ紹介

* 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2012年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフにしては、研究紹介および2012年度以前の研究業績についても掲載します。

井上順孝 所長・教授 宗教学・宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[単行本]

- ・『世界宗教百科事典』（責任編集）丸善出版、2012年12月。
- ・『第11回学生宗教意識調査報告』（編集責任）國學院大學、2013年1月。

[論文]

- ・「新宗教研究にとっての認知活動科学・ニューロサイエンス」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報第5号』國學院大學、2012年9月。
- ・「ファンダメンタリズムの潮流」（山折哲雄監修『宗教の事典』所収）朝倉書店、2012年10月。
- ・「越境する宗教」（山折哲雄監修『宗教の事典』所収）朝倉書店、2012年10月。
- ・「情報時代の宗教教育を考える」（聖心女子大学キリスト教文化研究所編『宗教なしで教育はできるのか』所収）春秋社、2013年3月。
- ・「二十一世紀の教派神道」『國學院大學研究開発推進機構紀要5号』國學院大學、2013年3月。
- ・「映画・ビデオ・DVD」『宗教と現代がわかる本2013』平凡社、2013年3月。

[その他]

シンポジウム

- ・アメリカ・南カリフォルニア大学における発表「Religion in Films and Religious Culture Education in Contemporary Japan」、2012年4月。

学会発表

- ・「宗教と社会」学会・学術大会（6月、長崎国際大学）での発表「認知科学・脳科学と日本の新宗教研究」。

講演

- ・神道六教派特立百三十年記念公開シンポジウム 基調講演「二十一世紀の教派神道」2012年6月。

斉藤こずゑ 教授 教育心理学、発達心理学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[その他]

学術講演

- ・倫理意識向上に関する一具体策～倫理規程作成～
音楽療法における「倫理意識とリスクマネジメント力」の向上を目指して（講習会E シンポジウム倫理委員会企画）日本音楽療法学会近畿支部第11回近畿学術大会論文集 69-71（2013）3月。

学会発表

- ・「発達記述メディアの構成する育児支援距離の機能」日本発達心理学会第24回大会発表論文集 91（2013）3月。

遠藤潤 准教授 宗教学・日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

【論文】

- ・「教祖論・教団論からみた平田国学—信仰・学問と組織—」幡鎌一弘編『語られた教祖—近世・近現代の信仰史—』法藏館、2012年4月、pp.241-265。
- ・「渋谷の寺院—近世を中心として—」國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会 石井研士編著『渋谷学叢書3 渋谷の神々』雄山閣、2013年2月、pp.197-225。

黒崎浩行 准教授 情報化と宗教、現代社会と神社神道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【論文】

- ・「宗教のインターネット活用が築くソーシャル・キャピタル」大谷栄一・藤本頼生編『地域社会をつくる宗教』叢書 宗教とソーシャル・キャピタル第2巻、明石書店、2012年、264-284。
- ・「渋谷の住宅地と神社祭礼」石井研士／國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会編著『渋谷学叢書3 渋谷の神々』雄山閣、2013年、117-143。

【口頭発表】

- ・「被災地の神社と復興の過程」第3回「東日本大震災関連プロジェクト～こころの再生に向けて」シンポジウム・研究会、京都大学こころの未来研究センター、2012年7月11日。
- ・「東日本大震災における宗教者の支援活動と研究者の後方支援」Workshop: New Perspectives in the Study of Japanese Religion: Research from Kokugakuin University、ハーバード大学ライシャワー日本研究所、2013年1月23日。
- ・“Relief Activities of Religious Organizations,” International Conference: Opportunities and Challenges of Participatory Digital Archives: Lessons from the March 11, 2011 Great Eastern Japan Disaster, The Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University, January 25, 2013.
- ・「宗教系大学の取り組みと宗教学者」東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座・京都大学こころの未来研究センター震災関連プロジェクト・宗教者災害支援連絡会主催パネルディスカッション「東日本大震災と宗教者・宗教学者」東北大学、2013年3月2日。

【その他】

- ・（項目執筆）「バーチャル宗教」世界宗教百科事典編集委員会編、井上順孝責任編集『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年12月、786-787。

平藤喜久子 准教授 神話学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【単行本】

- ・『神の文化史事典』白水社、2013年2月。松村一男、山田仁史と共編。

【論文】

- ・「岡正雄を読み直す—現代の神話学から—」ヨーゼフ・クライナー編『日本民族学の戦前と戦後 岡正雄と日本民族学の草分け』東京堂出版、2013年3月。
- ・「外国人が見た古事記」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第5号、2013年3月。

【口頭発表等】

- ・「岡正雄を読み直す—現代の神話学から—」「宗教と社会」学会第20回学術大会、長崎国際大学、2012年6月16日。
- ・「記紀が描く罪と災害」パネルディスカッション「災害の語りの宗教学」日本宗教学会第71回学術大会、皇學館大学、2012年9月8日。

- ・(講演)「外国人が見た古事記—1300年目の古事記—」第38回日本文化を知る講座「1300年目の古事記」、國學院大學、2012年6月2日。
- ・(基調講演)「はじまりとよみがえりの神話学」伊勢国際宗教フォーラム第6回年次大会「宗教と環境—時と場のよみがえり—」、皇學館大学、2012年11月18日。

[その他]

- ・「古事記編纂1300年—新しい視点からの神話教育—」『全教神協広報』第90号、2012年5月。
- ・(項目執筆)「日本神話」世界宗教百科事典編集委員会編、井上順孝責任編集『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年12月。
- ・「ゲーム世代と神話」『宗教と現代がわかる本2013』平凡社、2013年3月。
- ・(監修)「霊威ある神信仰の謎」『一個人 日本の神社の謎』KKベストセラーズ、2013年2月号。

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 准教授 日本宗教史、日本の民間信仰
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

松本久史 准教授 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築』

[口頭発表]

- ・(発題)「記紀・古典の視点から」第三十回神社本庁教学大会研究大会報告「神道的自然観と現代社会」國學院大學、2012年8月10日。

[その他]

- ・『古事記と国学』東京都神社庁研修シリーズ20、東京都神社庁、全57頁、2013年3月1日。

星野靖二 准教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[口頭発表]

- ・“Why “New” Buddhism? Modernity and the Buddhist Reform Movement in Modern Japan” [Invited Lecture, sponsored by the Buddhist Studies Workshop] at Princeton University, 2012.4.10
- ・“Why New Buddhism? Modernity and the Buddhist Reform Movement in Modern Japan” [Invited Lecture, sponsored by the Department of Asian Languages and Civilizations, the Eastman Lecture Fund, and the John W. Hall Lecture Fund] at Amherst College, 2012.4.19
- ・“Envisioning the Future Religion: Japanese intellectuals and American Religious Liberals in the Late 19th Century” [Reischauer Institute Special Presentation] at Harvard University, 2012.9.6
- ・“Envisioning the Future Religion: Japanese intellectuals in liberal religious landscape of 19th century America,” at the New England Association for Asian Studies (NEAAS) 2012 Conference, held at Amherst College, 2012.10.20
- ・“Presenting ‘Japanese religion’ in America at the End of the 19th Century,” at the Kokugakuin Workshop held at Reischauer Institute, Harvard University, 2013.1.23
- ・“Japanese Religions and Christian Education in Japan” [Guest Lecture, organized by Professor Andy Nakajima] at Hope College, 2013.2.1

[その他]

- ・(項目執筆)「近代の仏教思想」「ユニテリアン」世界宗教百科事典編集委員会編、井上順孝責任編集『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年12月。

塚田穂高 助教 宗教社会学、近現代日本の宗教運動

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

〔単行本〕

- ・『宗教と社会のフロンティア—宗教社会学からみる現代日本—』（高橋典史・岡本亮輔と共編著）勁草書房、2012年8月。

〔論文〕

- ・「日本社会と「宗教」をめぐる区切りと兆し—オウム裁判終結、「君が代」起立問題、「宗教情報ブーム」のゆくえから—（国内の宗教動向）」財団法人国際宗教研究所編『現代宗教 2012』秋山書店、2012年7月。
- ・“Cultural Nationalism in Japanese Neo-New Religions : A Comparative Study of Mahikari and Kōfuku no Kagaku”, (translation by Gaynor Sekimori) *Monumenta Nipponica* 67-1, 2012年7月。

〔その他〕

- ・「テーマセッション報告「宗教社会学・教団研究の現在と社会との接点—櫻井義秀・中西尋子『統一教会』を検討する—」（寺田喜朗・川島堅二・浅見定雄・山口広・櫻井義秀・中西尋子と共著）『宗教と社会』18、「宗教と社会」学会、2012年6月。
- ・“Religious Issues in Japan 2011 : Religion and “Society” Finale and Promise”, (translation by James W. Heisig) *Bulletin of the Nanzan Institute for Religion & Culture* Nr.36(2012), 2012年6月。
- ・（項目執筆）「戦後形成された新宗教」「密教系」「新しいタイプの団体」世界宗教百科事典編集委員会編、井上順孝責任編集『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年12月。
- ・『平成24年度國學院大學特別推進研究助成金 研究成果報告書 現代日本における公有地上宗教施設の実態把握のための基礎的研究』2013年3月。

鈴木聡子 助教（特任） 神道史学、

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

〔研究紹介〕

神社の歴史や祭礼について神道史学の観点から研究に取り組んでいる。特に古代・中世の二十二社や一宮を対象の神社として、神社ではどのような祭りを恒例の年中行事としておこなってきたのか、また、神社の年中行事が、いつ、だれによって創始されたのだろうかという問題に関心をもっている。これらの問題点から、祭りに関連する各神社の歴史と社会的背景をおさえながら、少しでも神社の実態を明らかにしていくことを目指している。

〔2011年度までの主な業績〕

- ・「神社年中行事の成立過程と宮中に関する一考察—相撲行事を事例として—」『モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践』文部科学省 私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業 成果論集、p241～254、平成24年3月31日。
- ・「ヤマ（山車）祭り成立の背景—神の移動と「山」—」『國學院大學伝統文化リサーチセンター紀要3号、國學院大學伝統文化リサーチセンター、p 109～121、平成23年3月31日。
- ・「宇佐宮神社年中行事の成立過程に関する一考察—節日行事と大宰権帥との関わりに焦点をあてて—」『國學院大學伝統文化リサーチセンター紀要3号、國學院大學伝統文化リサーチセンター、p 87～97、平成22年3月31日。

市川収 客員研究員 惑星物質科学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

カール・フレーレ (FREIRE, Carl) 客員研究員 近代の日本史（特に社会史・思想史）

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

李和珍 PD 研究員 宗教社会学、日韓の新宗教教団の比較研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【論文】

- ・「圓佛教の海外布教の現況—日本教区を中心に—」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報 第5号』2012（平成24年）9月30日、49～61頁。

加藤久子 PD 研究員 政治と宗教

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【論文】

- ・「負の文化遺産のツーリズム—＜アウシュヴィッツ＞への旅」山中弘編『宗教とツーリズム—聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012年6月。
- ・「アウシュヴィッツ—それは誰の歴史か」星野英紀・山中弘・岡本亮輔編『聖地巡礼ツーリズム』弘文堂、2012年11月。

【口頭報告】

- ・「社会主義政権下のポーランド社会におけるカトリック教会」（「カトリシズムとヨーロッパ近代」研究報告会、於・青山学院大学）2013年1月。

【その他】

- ・「ロシアのパンク・バンドの教会侵入事件とその余波」国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター『ラーク便り』第56号、2012年11月。
- ・（共著）「ムハンマド風刺映画とイスラム教徒による抗議デモ」国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター『ラーク便り』第56号、2012年11月。
- ・（項目執筆）「東欧の宗教状況」世界宗教百科事典編集委員会編、井上順孝責任編集『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年12月。
- ・（共著）「マヤ文明『終末の日』をめぐる世界各地の反応」国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター『ラーク便り』第57号、2013年2月。
- ・「気になる人物の発言集」渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本2013』平凡社、2013年3月。

小林威朗 PD 研究員 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

【口頭発表】

- ・「堀秀成の思想と行動—平田派国学者の視点から—」（日本宗教学会第71回学術大会、皇学館大学）2012年9月9日。
- ・「『古史伝』研究序説」（神道宗教学会第66回学術大会、國學院大學）2012年12月2日。

三ツ松誠 PD 研究員 国学思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

【論文】

- ・「嘉永期の気吹舎—平田鍬胤と「幽界物語」—」（『日本史研究』第596号、日本史研究会）2012年4月。
- ・「『国典』・『国教』・『国体』—祭・政・教をめぐる飯田年平の思想—」（『宗教研究』第372号、日本宗教学会）2012年6月。
- ・「諸家執奏廃止と神祇官—三輪田元綱の立場から—」（『近世の天皇・朝廷研究 大会成果報告集』第5号、学習院大学人文科学研究所）2013年3月。

【口頭発表】

- ・「福善禍淫と吉凶交替」（第29回鈴屋学会大会、本居宣長記念館）2012年4月。
- ・「所謂神基習合神道に関する一考察」（日本宗教学会第71回学術大会、皇學館大学）2012年9月。
- ・「諸家執奏停止と神祇官」（近世の天皇・朝廷研究 第5回大会、学習院大学）2012年9月。
- ・「天文暦学研究からみた宣長と篤胤」（歴史学研究会日本近世史部会3月例会、慶應義塾大学）2013年3月。
- ・「書評：深谷克己『東アジア法文明圏の中の日本史』（岩波書店、2012）」（アジア民衆史研究会2012年度第2回研究会、明治大学）2013年3月。

【その他】

- ・（史料研究ノート）「天野勝義宛井上文雄書簡」（『紙魚之友』第30号、房総史料調査会）2012年12月。

天田 顕徳 研究補助員 宗教社会学、民族宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【論文】

- ・2012年11月 「熊野 霊場と観光地のはざまに揺れ動く聖地」（星野英紀・山中弘・岡本亮輔編『聖地巡礼ツーリズム』弘文堂）。
- ・2012年02月 「本来の祭りの行方 和歌山県新宮市「お燈祭」に関わる言説の競合をめぐって」（由谷裕哉編『郷土再考』角川学芸出版）。

【口頭発表】

- ・2012年09月 「霊場の意味付けと顕在化する「違和感」—災害後の熊野を事例に一」於：日本宗教学会第71回学術大会（皇學館大学）。
- ・2012年09月 「信仰・文化・ノスタルジー「一茨城県・筑波山神窟講の継承と結集の原理に注目して」—於：講研究会（駒澤大学）。
- ・2012年08月 「パワースポット化する霊場」於：国際熊野学会（戸隠・旅館横倉）。

【その他】

- ・2012年04月 「（国内の宗教動向）紀伊半島豪雨と熊野—災害の様子と今後の見通しに関する一考察」（『国際宗教研究所ニュースレター（74）』国際宗教研究所）。

武田 幸也 研究補助員 近代神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

【口頭発表】

- ・「明治期の神風講社」（第27回講研究会例会、於駒澤大学）2012年12月22日。

市田 雅崇 共同研究員 民俗宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

一戸 涉 共同研究員 日本近世文学

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

【単行本】

- ・井上泰至・一戸涉・三浦一朗・山本綏子共編『春雨物語』三弥井書店、（「血かたびら」pp4-29「海賊」pp60-84「歌のはまれ」pp193-198の校注・評釈及び参考文献一覧pp270-274担当執筆）、2012.4。
- ・一戸涉・高野奈未・田代一葉・田中仁、「短冊研究文献目録稿（明治以降）」（pp495-511）及び掲載短冊の翻刻分担、鉄心斎文庫短冊研究会編『むかしをいまに—鉄心斎文庫短冊総覧—』、鉄心斎文庫伊勢物語文華館・八木書店、2012.9。

- ・一戸渉、「古典形成と出版—近世日本の書物メディアをめぐる—」、一戸渉・佐藤文彦共編『「古典」は誰のものか—比較文学の視点から—』、金沢大学人文学類、pp43-54,2013.2。
- ※一戸渉・佐藤文彦共編との共編で同書全体（pp1-99）の編纂を行う。

【論文】

- ・「金沢大学日本語学日本文学研究室所在古典籍目録稿」『金沢大学国語国文』、第38号、金沢大学国語国文学会、pp75-87、2013.3。
- ・一戸渉・高橋悠里「最末期の金沢蕉門—東榮松氏所蔵宮森北葉関係俳諧資料をめぐる—」、『金沢大学歴史言語文化学系論集言語・文学篇』、第5号、金沢大学歴史言語文化学系、pp21-42、2013.3。

【口頭発表・学術講演】

- ・「古典形成と出版—近世日本の書物メディアをめぐる—」、金沢大学人文学類シンポジウム「「古典」は誰のものか—比較文学の視点から—」、金沢大学サテライトプラザ、2012.12.15。
- ・「出府と蟄居—非蔵人橋本経亮の誤算—」、第3回人的交流研究会、岩瀬文庫、2013.3.2。

今井信治 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【論文】

- ・「ファンが日常を「聖化」する—絵馬に懸けられた願い—」山中弘編『宗教とツーリズム—聖なるものの変容と持続—』世界思想社、2012年6月。
- ・「フレームから浮かび上がるリアリティ—秩父札所十七番定林寺調査を中心に—」『デジタルゲーム学研究』第6巻第2号、日本デジタルゲーム学会、2012年9月。
- ・「鷲宮神社」星野英紀・山中弘・岡本亮輔編『聖地巡礼ツーリズム』弘文堂、2012年11月。

【その他】

- ・（項目執筆）「インターネットと宗教」世界宗教百科事典編集委員会編、井上順孝責任編集『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年12月。
- ・（項目執筆）「クベラ」「オシラサマ」「コンゴウリキシ」「シテンノウ」村松一男・平藤喜久子・山田仁史編『神の文化史事典』白水社、2013年2月。
- ・（書評）「由谷裕哉編著『郷土再考—新たな郷土研究を目指して—』」『北陸宗教文化』26号、2013年3月。

小田真裕 共同研究員 日本近世史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

【論文】

「武州二郷半領の村々と虚無僧—横堀村・駒形村を中心に—」（『三郷市史研究 葦のみち』24）。

【その他】

史料研究ノート「加瀬一家文書にみる天保期の東総村落」（『紙魚之友』30）。

書評「小田原近世史研究会編『近世南関東地域史論：駿豆相の視点から』」（『千葉史学』61）。

イグナシオ・キロス (QUIROS, Enrique Ignacio Luis) 共同研究員 上代の国学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

小堀馨子 共同研究員 古代ローマ宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

野口生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【研究紹介】

ペンテコスタリズムの宗教人類学的な研究を行っている。ペンテコスタリズムとは、今日、世界中で急成長している聖霊主義的なキリスト教運動の総称である。個々のローカルな文脈における宗教的な独自性に注目し、それらを比較し、グローバルな宗教史に位置づけることを試みている。これまで日本、韓国、オランダにおける現地および移民の教会を調査してきた。現在は特に、非西欧圏のトランスナショナルな事例として、日本における韓国系ペンテコスタリズムを研究対象とし、エスニシティの境界を越えた布教戦略および回心過程の考察を進めている。

2011 年度までの主な研究業績

【論文】

- ・“Japan: Het verzoenende geloof van de Koreaanse bureu.” *CV Koers* (June 2008), 2008 年 6 月（*オランダ語論文）。

【口頭発表】

- ・“The Japanese Acceptance of Korean Pentecostalism: A Case of Yonggi Cho's Church in Japan.” Presented at International Symposium “Pentecostalism and Shamanism in Asia,” Nanzan Institute for Religion and Culture, Nanzan University, Nagoya, Japan, 2012 年 1 月 21 日。
- ・「日本における韓国系ペンテコスタリズム：一支部教会の事例を中心に」（南山宗教文化研究所懇話会、南山大学）、2011 年 7 月 14 日。

【その他】

- ・（講演）“Religion and Migration: Cases of Korean Migrant Churches in US and Japan.” Lectured at Department of International Liberal Arts, Akita International University, Akita, Japan, 2011 年 6 月 10 日。
- ・（書評）「書評 大谷栄一・川又俊則・菊池裕生編『構築される信念—宗教社会学のアクチュアリティを求めて』」、『東京大学宗教学年報』第 19 号、2001 年。

村上 晶 共同研究員 宗教社会学、シャーマニズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

【論文】

- ・「富士山—「信仰の山」への回帰—」星野英紀・山中弘・岡本亮輔編『聖地巡礼ツーリズム』弘文堂、2012 年 11 月。
- ・「消えゆく巫俗と生きのびる巫者—ワカとイタコを事例として—」『宗教学・比較思想学論集』第 14 号、2013 年 3 月。

【口頭発表】

- ・“Japanese Shamanistic Traditions and the “Supirituaru” in the panel “The Global and the Local in the “Supirichuaru” (Spiritual) of 21st Century Japan,” Asian Study Conference Japan, 立教大学、2012 年 6 月。
- ・「巫者の呼称に関する一考察—ワカとイタコを中心に—」日本宗教学会第 71 回学術大会、皇學館大学、2012 年 9 月。

【その他】

- ・翻訳「宗教」日本特殊教育学会訳編『障害百科事典』丸善出版、2013 年 1 月。

ヤニス・ガイタニデイス (GAITANIDIS, Ioannis) 共同研究員

医療人類学・宗教社会学・日本学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

山梨有希子 共同研究員 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

土屋博 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

林淳 客員教授 日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

星野英紀 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

山中弘 客員教授 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」